学校創立１４１周年

百年松

阿木名小中学校便り　令和２年１０月２０日発行

◇ 校訓「かしこく　やさしく　たくましく」

あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい，元気いっぱい，笑顔あふれる阿木名っ子～

阿木名小中学校

思いを遣(や)る

校長　川原　啓司

日増しに秋も深まり、とても過ごしやすい季節となりました。秋といえば「食欲・スポーツ・読書・芸術」等々、様々な代名詞がつきます。どの秋を満喫していらっしゃるでしょうか。また「秋の日はつるべ落とし」という言葉があります。「つるべ」とは井戸から水を汲み上げるために使う道具のことです。桶の先に縄をくくり付けて、井戸の底に降ろして縄を引き上げることで水を汲むことができます。つるべは手を離すと一気に井戸の底に落ちていくことから、秋の日が落ちる早さを例える言葉として使われるようになりました。車を運転される方なら日没前後、薄暗がりの中での運転のしづらさは経験があると思います。実際１０月～１２月の午後５時から７時までの交通事故の発生数は突出しています。そのため、ヘッドライトは日没の３０分前には点灯しておくのがよいとされています。目安としては前の車のテールランプや信号の点灯が気になり出す頃だそうです。運転者だけでなく歩行者も事故に遭いやすい時間帯だと知ったうえで、子どもたちも道路を横断する際には十分気を付けさせたいと思います。

さて新型コロナの感染予防として、人が集まる場所では基本的にマスクの着用が当たり前となってきました。加えて手洗いうがいも意識して行っているため、インフルエンザの発生は去年に比べて世界でも激減しているようです。日本での本格的な流行期はこれからですので、引き続き感染予防に努めていきましょう。

一方で、マスク着用により口元が隠れることで、「声が聞き取りにくい」「表情が見えにくい」など相手とのコミュニケーションをとるうえではいろいろとマイナス面を感じている方も多いと思います。ただ欧米人が口元に関心が深いのに比べて、日本人は目元から多くの情報を得るのが得意だそうです。「目は口ほどに物を言う」ということわざもあります。口元が見えなくても、私たちはその他の部分から読み取れることがたくさんあります。

マスク生活が長引くことで、子どもたちが自分の感情や表情を表に出したり言葉を発したりするのを面倒がるようでは、健全な成長に大きな影響を及ぼしかねません。このような状況だからこそ、目の表情や声のトーン、身振りなどを使って、しっかりと自分の意思を相手に伝えたり、相手の表情から伝えたいことを感じ取ったりすることが大切です。「思いを相手に遣る（向ける）」ことが思いやりの第一歩だと思います。